

## 100円割れ続く中堅ゼネコン

### 大豊建設

3位の大豊建設は土木事業を主力とする中堅ゼネコン。最近是不動産開発も手がけている。03年には2153億円の負債を抱えて民事再生法を申請した森本組の救済に名乗りを上げた。

同社が注目を集めたのは、8月中旬の駿河湾沖の地震や西日本の豪雨災害のあと。需要増が見込める低位株のひとつとして相場をリドし、一時は大幅高も記録した。ただし、同じころに

建設工事受注総額は44.9%減。調査開始以来、最大の落ち込みとなった。先行きの不透明感は大抵できない状況で、大豊建設の株価も、その後は100円割れが続いている。  
 民主党政権の公共事業見直しの影響も、同社にとっては気になるところだ。

### 企業価値検索サービス ユーレット アクセス上昇ランキング

(8月23~29日)

|   | 銘柄       | 取引所    | 株価(円) |
|---|----------|--------|-------|
| 1 | 東芝       | 東証1部   | 467   |
| 2 | コスモスイニシア | ジャスダック | 64    |
| 3 | 大豊建設     | 東証1部   | 92    |
| 4 | トヨタ自動車   | 東証1部   | 4040  |
| 5 | 凸版印刷     | 東証1部   | 925   |

\*28日終値。http://www.ullet.com/

発表された第1四半期の連結業績は、売上高が249億円、営業損失は8億9000万円、純損失は8億3500万円。過去最大規模といわれる補正予算で公共事業は増えているものの、民間の建設投資は大幅に減っているのが響いている。

日本建設業団体連合会が27日に発表した7月の

ユーレット 上場企業400社の決算書を複数年にわたりデータベース化したサイト。売上高や営業CFなど、さまざまな角度から企業の経営を分析し、ワンクリックで他社と比較できる。経営方針の転換や経営リスクの高まりなど、市場が注目する銘柄のアクセスが増える傾向がある。